

# 関西方言の動向

— タ・ジャ・ヤの行方 —

鎌田良二

(一)

昭和五十六年五月、国語学会公開講演会において「関西における地方共通語化について」と題して話したことがある。

そのときの私の要旨の一部は次の通りである。

①指定(断定)助動詞ヤは幕末天保(一八三〇—一八四四)頃に大阪の女ことばとして生じた。

②そのヤは明治三九年(一九〇六)にはヤ専用地域は大阪府と府東成郡・中河内郡・南河内郡のみで他の郡はジャ・ヤ並用地域であった。

③それが現在では近畿地方殆どがヤ専用地域になった。殆ど

というのは兵庫県北部の但馬地域がタ地域だからである。

右の①②③の資料として次のものをあげる。

①前田勇「指定助動詞『や』に就て」。(『近畿方言』12、一九五二)

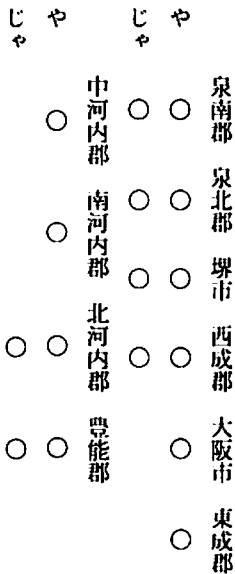
大阪における指定助動詞「や」の発生は天保の終わり近い頃ではないだろうかと思われるのである。そして今一つ想像されることはこれは元米女性の間から生まれたのではないということである。用例(近世諸文献)も女性の場合が多いのみならず、どうも語感が女性的である。この想像を裏付けてくれるものは口語調査報告書、京都府船井郡の報告に見える次の一条である。

言葉ノ末ノ断定ニ用キル「である」ヲ約転シテジャ又ハヤ

ト云ヒ、而シテヤ|ノ多クハ婦人又ハ兒童ニ使用セラルルヲ  
重トスルノ相違点アリ。

②同、前田勇『近畿方言12』

口語法調査報告書(一九〇六)の大坂府を見ると、「や」  
はまだ府下の「ぢゃ」をさえ駆逐し去っていない。



③平山輝男著『日本の方言』(一九六八)にこの(図2)が  
ある。近畿地方の殆どがヤになっている。口語法調査報告書と  
の六〇年間の差である。

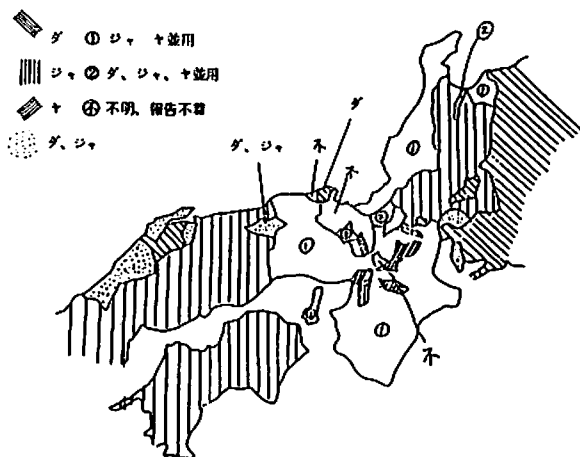
この違いを兵庫県の但馬地区においてみたのが(図3)であ  
る。

この(図3)中の(一九二〇)は岡田荘之輔『但馬ことば』  
(兵庫県立但馬文教府一九七七)に、「朝米郡山口の荒川義一  
(明治三二年生)「不断はヤを用いるが時々ジャが出てくる。  
朝米でジャがヤに移り変わったのは大正時代の事と思われる。」

によるものである。

(図1)

指定助動詞ダ、ジャ、ヤ



【日本方言地図】  
「口語法分布図」1906年(東京博文堂古稀記念会より作図)



その北の（一九四六）は、和田実氏の昭二・二・三年度の旧、兵庫師範学校女子部において東条操文例調査によるヤの北限を示すもので、さらにその北の（一九八二）の線は昭和五六年に私が調査したもので、各地中学生（少年、少女層）とその両親（成人層）の百分率で示すもので別表として掲げた。

同じ項目の上段が男性、下段が女性。少年層はすべて公立中学二年、三年の一クラス。豊岡市A中学は豊岡駅から近く、B中学は町なかから少し離れたところにある。

成人より少年の方が、男性より女性の方にヤが多くなっていることが見られる。

前田勇『近世上方語辞典』で、「や（助動）断定助動詞「ぢゃ」の訛、ただし、未然形「やろ」が多く、終止形「や」はまれである。」

とあるように、但馬のダ地域でもダラー（だろう）推定が多く、終止形は少ない。

というのでこの表でもダッタ・ダケドの形で調査した。

〔表1〕

"	関宮(東)	大屋	但東	出石	"	豊岡A	日高	八鹿	養父	和田山	男		
											少	成	
70	50	18	76	50		90	93	100	39	11	少	静カダ	
100	46	11	90	60	84	100	90	67	0		成	静カダ	
20	43	82	24	50		10	7	0	61	89	少	静カヤ	
0	27	67	7	40	16	0	10	33	100		成	静カヤ	
10	7	0	0	0		0	0	0	0	0	少	静カジャ	
0	27	22	3	0	0	0	0	0	0		成	静カジャ	
												女	
50	67	13	93	40		95	91	61	36	0	少	静カダ	
71	45	12	80	43	48	67	93	61	33		成	静カダ	
50	30	87	7	60		5	9	39	64	100	少	静カヤ	
29	22	50	10	57	52	33	7	33	67		成	静カヤ	
0	3	0	0	0		0	0	0	0	0	少		

少||少年層 成||成人層

〃 (西)	関 宮 (東)	大 屋		但 東	出 石	〃 B	豊 岡 A	日 高	八 鹿	養 父	和 田 山	男	
86	44	11		67	41		95	100	94	28	5	少	ダ ッ タ
100	55	11		87	60	79	100	100	92	0		成	ダ ッ タ
14	48	89		33	59		5	0	6	72	95	少	ヤ ッ タ
0	18	78		3	30	21	0	0	8	100		成	ヤ ッ タ
0	8	0		0	0	0	0	0	0	0	0	少	ジ ャ ン ッ タ
0	27	11		10	10	0	0	0	0	0		成	ジ ャ ン ッ タ
												女	
71	52	0		90	20		96	100	83	23	0	少	ダ ッ タ
57	44	19		70	40	84	92	88	47	22		成	ダ ッ タ
29	41	100		10	80		4	0	17	69	100	少	ヤ ッ タ
43	12	31		20	60	16	0	12	47	78		成	ヤ ッ タ
0	7	0		0	0		0	0	0	8	0	少	ジ ャ ン ッ タ
0	44	50		10	0	0	8	0	6	0		成	ジ ャ ン ッ タ
												男	
72	36	47		71	45		90	100	100	26	5	少	ダ ケ ド
100	46	22		79	60	78	100	90	92	0		成	ダ ケ ド
28	64	53		24	55		10	0	0	74	95	少	ヤ ケ ド
0	27	67		14	30	22	0	10	8	100		成	ヤ ケ ド
0	0	0		5	0		0	0	0	0	0	少	ジ ャ ケ ド
0	27	11		7	10	0	0	0	0	0		成	ジ ャ ケ ド
												女	
43	52	0		93	37		95	100	67	23	0	少	ダ ケ ド
86	45	12		50	30	86	96	100	60	22		成	ダ ケ ド
57	44	100		7	63		5	0	33	77	100	少	ヤ ケ ド
14	22	63		40	70	14	4	0	27	78		成	ヤ ケ ド
0	4	0		0	0		0	0	0	0	0	少	ジ ャ ケ ド
0	33	25		10	0	0	0	0	13	0		成	ジ ャ ケ ド

「である」から「デア」となり、これから一方でダとなり、もう一方ではチャ(ジャ)となったものである。

dearu-<sup>da</sup>da 今のデアは現在、能登地方にある。

そしてダは東日本に、ジャは西日本に広まった。

西日本とは富山県から石川・福井・岐阜から西だが、兵庫北(但馬)鳥取・島根はダ地域になっている。

富山・石川・福井・岐阜ではジャとヤの併用地域で、同一人が両方を使う。

何ジャト思ッテ行ッたら火事ヤッタなど。

その西日本のジャが、幕末からヤが生じたことは先に記した通りである。

もう一度(図2)を見ていただきたい。

これを見ると、近畿地方の始どがヤである。中国地方の山陽側はジャ、山陰側はダである。

四国の始ど、九州の始どもジャである。

ところが最近(平成八年)、広島文教女子大学の友定賢治教授の発表で広島人はヤが下関市の方から入ってきた。

[表2]

	有中		赤中		東中		計		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
桜ヤ 桜ジャ	14	14	15	13	17	16	46	43	89
	3	0	1	2	0	0	1	2	3
							(※3)		
ナンヤカ (なんだか)	12	12	9	14	14	14	35	41	76
ナンジャカ ナンジャカ	3	2	2	3	3	2	8	5	15

という、広島市は(図2)で完全にジャ地域である。私ももと呉市の旧制中学に通ったことがあり、その同級会が毎年あり、つい先日にもその会に集まったところ同級生はジャを連発していた。ヤは全く聞かれなかった。

ところが、広島市の女子大生はヤが多い。しかも、それが西の下関から入ってきたという。

それを確かめようとしたのが、(表3)以下である。

まず、ヤは幕末に大阪の女ことばとして生じたものである。

それがどうして広島人は東の大阪からでなく、西の下関から来たというのか。

せめて、大阪でなくても兵庫・岡山のように東からとは言わないのか。

兵庫の西端・赤穂市は昭和三十年中学生を対象として調査した結果は上の通りである。数字は人数。

この表の学校は三校とも赤穂市立で「有中」は市立有年中学・「赤中」は赤穂中学・「東中」は赤穂東中学である。

※印は、平生は、桜ヤというが、乱暴な言い方をした時に、桜ジャと怒ったように言う時に用いるという。

赤穂市の東の方、姫路寄りの東中にはヤが多く、西即ち岡山寄りの方にジャが少しあるということになる。

ナンジャカンジャ（何だかんだ）のように慣用的なものについてのようなすをしらべた。

昭和三十年のものだが四十年後の現在はすべてヤになってい

### (三)

広島県人が下関の方からと言い、広島市の女子学生が下関からということから、果して下関市かということ、下関と言えば、まず門司の方はと考えた。

そして、女子学生とは若い女性ということで、女子高校生を対象として調査することにした。門司の女子高校に調査依頼したところ断られたので、門司は現在、北九州市門司区になっているが、知人を通してもと北九州市教育委員であった人が現在、北九州市のすぐ南隣の直方市教育委員になっているのでその

方の紹介で直方市立第三中学と直方女子高校に調査依頼した。

以下、公立中学二年一クラスと女子高校二年一クラスとした。

山口県下関市立日新中学校・下関市の梅光女学院高校

岡山市立立石中学校・岡山市の山陽女子高校

(表3)を見るについて、中学校一クラス四十名以下を男別に分けたので男二十名、女二十名位を百分率で示したので、一名あれば五パーセント位になる。女子高校は一クラス四十名から五十名だから一名は二パーセント位になる。

また、調査は用紙に例文を書き、「友人と話すとき普通どう言いますか、使うものがない場合は( )内にその形を書き入れて下さい。」とした。

そして、記入にあたって、氏名欄は作ったが、公立中学では男女別だけは記入して下さい。実際の氏名はなくてもよいとしたので、中には他府県出身者がいるかもしれないが、それについては結局たださなかつた。

まず(表3)を見よう。

1、「いつも元気(ダネ・ジャネ・ヤネ)

中学男子の岡山・福岡にジャがある。福岡の二一パーセントは人数にして二人位。これは「2 もう シナイ…」の項の「だろう」の中男ジャローも同じだから同一人物だろう。前の

(圖2)で九州は一般にジャであったからこれが残ったものかと思われる。中女・高女の山口・福岡にジャはない。女子はヤが百パーセントである。(中女)は中学女子・「高女」は高校女子)

一般に若い女性はより新しいことば(語形)を使いたがるものである。

「2、もう「シナイ・セン・セーヘン」「タロー・ジャロー・ヤロー」

まず、「しない」は中国地方はセンである。近畿はセーヘン。米ンに対してはケーヘン・米ーヘン・米ーヒンなど、未然十んは中国、ヘンは近畿である。兵庫から鳥取・岡山に入るととたんにヘンからシにかわる。「せぬ(ヘン)」と「ぬ(ン)」との変化である。

山口の「高女」にジャローが一人、二%ある。岡山はジャロー。先の前田勇『近世上方語辞典』にも終止形はまれで、ヤロが多かった。

この項の「中女」の欄外に「デシヨー6」があるのは岡山の中女に一人、ダ・ジャ・ヤを使わないでセンデシヨーと答えた

ものがあつたことを示す。

「3、誰も来なかった」では指定のダ・ジャ・ヤが入っていないが、近畿では(米)コンヤッタの形があるのでこれを入れたいが、もう一つはコン・コーヘン・ケーヘンの形の中国地方のようすを知りたかったのである。各地コンが多く、百パーセントがある。

「4、何だかんだと、文句ばかり言う」

先に兵庫県赤穂市で、ナンジャカンジャと慣用的になった使い方があると言うのでこれを入れたが、この三地点ではこう言いは固定したのではなく、欄外に記したゴチャゴチャ、ナンデン カンデン、アージャ コージャヤ、ナンダ カンヤなど、いろいろあることがわかった。

岡山の中学男女ともジャよりヤが多くなっている。高女ではジャが半分に近い。

「5、あれは何だ 椿だ」

先の赤穂市では「桜だ」にしたが、桜を見て何だとたずねるのが不自然と思つたので椿にした。

福岡の「中男」に、「1、元氣」「2、しない」と、この項でもジャに(11)がある。これは同一人物の二人かと思う。

「何だ」のダ・ジャ・ヤ」の下欄に空欄があるが、これは



「ナニ」「ナンナン」など、ダ・ジャ・ヤがつかないもの。「楮だ」も「ツバキ」や「ツバキヨ」の形である。

ダ・ジャについてももう一つ、最後にある大分・別府の項、三崎・瀬戸・八幡浜・大洲は愛媛県西部の三崎半島から九州大分県に接するところである。(図2)にあった通り、四国も大分分ジャであるのに、ここにもヤが多いことがわかる。少くともジャが少なくヤが多いことがわかる。

ここで、ダ・ジャ・ヤの行方の結論のようなことを記しておく。

幕末に大阪に生まれたヤが、何故、岡山を通り越して、下関に行ったのか。

実は山口県の下関よりも、九州福岡県の北九州市へ行ったのではないかと考える。

言語地理学の教えるところでは、「より文化的程度の高い土地のことはまねる」ということがある。

最後に関係各市の人口をあげたが、大阪府は八八〇万、大阪市と神戸市だけで計四〇〇万、大阪市と神戸市との間の吹田市や尼崎・西宮それに京都市を入れると大都市には間違いない。

西の北九州市一〇九万市民が、近くの西の中心部・京阪ことばのヤをとり入れた。北九州市と福岡市は近い。この二つにヤが入ればその隣の下関はヤになる。門司の女子学生が下関の大学に通っている。

北九州市だけでも百万を越す大都市・福岡市を入れると二百万の大都市である。これが西の中心地京阪神ことばのヤをとり入れたと考える。

それなら、何故、岡山市(五九万)・広島市(一〇四万)をとび越したのか、これには、まず、広島市が強かったといふこともあろうが。

岡山市は兵庫の隣りではない。兵庫の隣は岡山県だが、岡山市は赤穂市や姫路市からかなり遠い。兵庫に接するのは、日生町や備前市などで、岡山市まではかなりの距離があり、それに加えて広島市のジャが強い。岡山市民にとって「より文化的」なところはむしろ広島市である。

「より文化的程度の高い」ところとは勿論、東京であるが、その前に「近く」ということがある。先に示した兵庫県豊岡市民は東京形の夕地域でありながら、ダをやめて「近くの」姫路・神戸式のヤになろうとしている。そういう意味から岡山市にとって見貴分は広島である。

同じ意味で熊本市にとっては福岡市や北九州市である。

それで、最後に記した熊本市のヤがある。熊本市の若い人がヤが入ってきている。熊本市は(図2)にあるように少し複雑だが周辺にジャがありヤが入っている。それが若者からヤになってきている。

こうなると、これから十年後はヤは中国・四国・九州にさらに広まって来るだろうと考えられる。

ここで、助動詞タ・ジャ・ヤの問題を一旦おいて、このように近畿のヤが岡山・山口・福岡に浸入しているなら、近畿語も同じような動きを見せているのだろうかと思つて以下の語も調査してみた。

「6、米ることができない」は、中国風のンでコレンが多く、近畿風のヘンは少ないが、福岡は他の県よりもコレヘンが多く、コレヘンと合わせると二七％になる。福岡にヘンが浸入していることがわかる(中男)

「7、買った」

関東のカッタと関西のコータは共通語形(教科書語形)のカッタが都会地では多い。

「8、いくら起こしても起きない」

これも、岡山・山口では中国風のオキンであるが福岡ではヘンがいくつも見られる。

岡山・山口よりも福岡の方が早くより近畿式になってきているといえる。

「9、そんなに朝早く、起きられない」

「10、あの子は幼くて、字が読めない(能力)」

「11、暗くて読むことができない(状況)」

能力のヨーマンの形は近畿型と言ってもよいようなものであるが、これは隣の岡山に多い。

この調査にご協力頂いた福岡県直方市教育委員会・直方市・下関市・岡山市の中学校と女子高校の先生と生徒の皆さんに厚く御礼申し上げます。

【表3】

1. いつも元気「ダネ ジャネ ヤネ」

元 気	中・男		岡山	山口	福岡
		ダ	5	20	22
		ジャ	84		11
		ヤネ	11	80	67

元 気	中・女		岡山	山口	福岡
		ダ	38	5	
		ジャ	54		
		ヤネ	4	95	100

元 気	高・女		岡山	山口	福岡
		ダ	19	7	
		ジャ	55		
		ヤネ	21	93	100

ヨナ4

ヨナ5

2. もう「シナイ セン セーヘン」「ダロー ジャロー ヤロー」

し な い	中・男		岡山	山口	福岡
		シナイ	5		28
		セン	95	100	50
		セーヘン			22

し な い	中・女		岡山	山口	福岡
		シナイ		5	
		セン	100	95	88
		セーヘン			12

し な い	高・女		岡山	山口	福岡
		シナイ	7	18	
		セン	86	82	98
		セーヘン	7		2

だ ろ う	中・男		岡山	山口	福岡
		ダロー	10	20	22
		ジャロー	85		11
		ヤロー	5	80	67

だ ろ う	中・女		岡山	山口	福岡
		ダロー			
		ジャロー	96		
		ヤロー	4	94	100

だ ろ う	高・女		岡山	山口	福岡
		ダロー		2	
		ジャロー	90	2	
		ヤロー	7	94	91

デナ6

デナ7 デナ8 デナ9  
デナ10  
デナ11  
デナ12

3. 誰も来なかった「コン コーヘン ケーヘン」「ダッタ ジャッタ ヤッタ カッタ」

来 な か っ た	中・男		岡山	山口	福岡
		コン	100	100	81
		コーヘン			
		ケーヘン			13
		ダッタ	9	6	5
		ジャッタ		13	
		ヤッタ		54	84
		カッタ	91	27	11

来 な か っ た	中・女		岡山	山口	福岡
		コン	100	100	88
		コーヘン			
		ケーヘン			6
		ダッタ			
		ジャッタ			
		ヤッタ		93	72
		カッタ	100	7	28

来 な か っ た	高・女		岡山	山口	福岡
		コン	86	100	100
		コーヘン	2		
		ケーヘン	2		
		ダッタ	10	2	
		ジャッタ	10		
		ヤッタ		78	86
		カッタ	78	20	14

コナ6

コーヘン

コナ7  
コナ8  
コナ9

4. 何だかんだと 文句ばかり言う

何 だ か ん だ	中・男		岡山	山口	福岡
		ダ	38	50	50
		ジャ	24		10
		ヤ	27	38	40

何 だ か ん だ	中・女		岡山	山口	福岡
		ダ	55	58	68
		ジャ	20		
		ヤ	25	42	26

何 だ か ん だ	高・女		岡山	山口	福岡
		ダ	30	70	56
		ジャ	48		
		ヤ	20	30	42

ゴナ10  
ゴナ11  
ゴナ12

タンタンタンデン6

アナ10  
アナ11  
アナ12

5. あれは何んだ 椿だ

何んだ椿だ ナンダ	中・男		岡山	山口	福岡
		ダ	22	45	55
		ジャ	34		11
		ヤ		25	34
			44	30	

何んだ椿だ ナンダ	中・女		岡山	山口	福岡
		ダ	46	88	53
		ジャ	38		
		ヤ		12	41
		ナニ(他)	16		6

何んだ椿だ ナンダ	高・女		岡山	山口	福岡
		ダ	32	72	51
		ジャ	16	2	
		ヤ	18	23	6
		ナニ(他)	34	2	43

ツバネダ	中・男		岡山	山口	福岡
		ダ	12	54	55
		ジャ	63		11
		ヤ	25	40	34
				6	

ツバネダ	中・女		岡山	山口	福岡
		ダ	55	88	56
		ジャ	45		
		ヤ		22	44

ツバネダ	高・女		岡山	山口	福岡
		ダ	30	73	52
		ジャ	62	4	
		ヤ	8	23	45
		ヨ(他)			3

6. 来ることができない

来ることができない	中・男		岡山	山口	福岡
		コレン	82	64	46
		コラレン		18	22
		コレヘン	6	6	16
		コレヘン			11
		コレナイ	12	12	5
		コラレナイ			

来ることができない	中・女		岡山	山口	福岡
		コレン	96	68	50
		コラレン		22	31
		コレヘン		5	13
		コレヘン			
		コレナイ		5	
		コラレナイ			

来ることができない	高・女		岡山	山口	福岡
		コレン	74	70	78
		コラレン	14	21	13
		コレヘン	6		
		コレヘン			
		コレナイ	4	7	
		コラレナイ	2	2	5

イケレヘン1 イケン6

イケン2  
コラレヘン2

7. 買った「カッタ コータ」

買った	中・男		岡山	山口	福岡
		カッタ	55	82	72
		コータ	45	18	28

買った	中・女		岡山	山口	福岡
		カッタ	78	88	94
		コータ	22	12	6

買った	高・女		岡山	山口	福岡
		カッタ	65	98	90
		コータ	35	2	10

8. いくら起こしても 起きない

起きない	中・男		岡山	山口	福岡
		オキソ	90	88	55
		オキヘン		12	30
		オキセン			5
		オキナイ	10		10
		オキヒン			

起きない	中・女		岡山	山口	福岡
		オキソ	96	88	82
		オキヘン			12
		オキセン			
		オキナイ	4	12	6
		オキヒン			

起きない	高・女		岡山	山口	福岡
		オキソ	82	95	88
		オキヘン	8		2
		オキセン			
		オキナイ	8	5	10
		オキヒン	2		

9. 起きられない<不可能>

起きられない △不可能 ▽		岡山	山口	福岡
	オキレン	85	68	50
	オキラレン	5	26	
	オキレヘン	5	6	28
	オキラレナイ	5		22

起きられない △不可能 ▽		岡山	山口	福岡
	オキレン	96	62	50
	オキラレン	4	33	38
	オキレヘン			12
	オキラレナイ		5	

起きられない △不可能 ▽		岡山	山口	福岡
	オキレン	82	82	74
	オキラレン	8	12	24
	オキレヘン	6		
	オキラレナイ	2	6	

オキレン12    オキレン12

10. あの子は幼くて 字が読めない<能力>

読めない △能力 ▽		岡山	山口	福岡
	ヨメン	38	94	45
	ヨメレン	38	6	5
	ヨメラレン			5
	ヨ-ヨマン	24		12
	ヨメナイ			28

ヨメン5

読めない △能力 ▽		岡山	山口	福岡
	ヨメン	43	67	70
	ヨメレン	15	16	18
	ヨメラレン		5	6
	ヨ-ヨマン	27		
	ヨメナイ	12	12	6

ヨ-ヨマン3

読めない △能力 ▽		岡山	山口	福岡
	ヨメン	52	66	77
	ヨメレン	31	20	2
	ヨメラレン		7	
	ヨ-ヨマン	15		
	ヨメナイ		7	17

ヨメン2

ヨ-ヨマン2  
ヨメラレン

11. 暗くて読むことができない<状況>

読めない △状況 ▽		岡山	山口	福岡
	ヨメン	63	88	45
	ヨメレン	28	12	5
	ヨメラレン			11
	ヨメナイ	9		34

読めない △状況 ▽		岡山	山口	福岡
	ヨメン	38	78	70
	ヨメレン	54	17	6
	ヨメラレン	4		18
	ヨメナイ	4	5	

読めない △状況 ▽		岡山	山口	福岡
	ヨメン	15	78	74
	ヨメレン	79	10	12
	ヨメラレン		2	2
	ヨメナイ	4	10	10

岡山…岡山市立石井中学校・山陽女子高等学校 (人口) 北九州市…105万人 福岡市…116万人  
 山口…下関市立日新中学校・梅光女学院高等学校 下関市…26万人 宇都宮市…17万人  
 福岡…直方市立第三中学校・直方女子高等学校 山口市…12万人 岡山市…59万人  
 大阪市…250万人 神戸市…145万人

推 値 (書)		大分		別府		三崎		瀬戸		八幡浜		大洲	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	書クダロー	27	42	15	•	8	15	5	20	15	6	10	10
	カクジャロー	15	•	60	20	8	•	5	•	10	•	58	68
	カクヤロー	48	42	20	75	76	85	90	80	75	88	22	17
	カクロー	5	8	5	•	4	•	•	•	•	6	5	•
	カクガネーヤ	•	•	•	•	4	•	•	•	•	•	•	•
	カコーガ	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5	•
	カクデショー	5	8	•	5	•	•	•	•	•	•	•	5

や〔助動〕くだ。断定を表す。九州方言の断定の助動詞は、熊本市とその周辺部が「ダ」、そのほかの地域は「ジャ」であった。現在は、若者層から「ヤ」が浸透しつつある。

【熊本の方言】熊本日日新聞刊